

相模鉄道 要望項目一覧（11件）

輸送力増強	2
1 新線・線増計画	
(1) いずみ野線の平塚への延伸（継続）	
(2) いずみ野線のツインシティ方面への延伸（継続）	
2 輸送計画の改善	
<他路線への乗入れ>	
(1) JR相模線への乗入れ（継続）	
(2) 小田急線への乗入れ（継続）	
<その他>	
(3) 横浜駅～海老名駅間の特急電車の充実（継続）	
(4) 神奈川東部方面線の事業進捗について（継続）	
利便性向上	4
1 新駅の設置	
(1) 海老名駅～かしわ台駅間への新駅の設置（継続）	
2 駅施設等の整備	
(1) 高齢者、障害者、乳幼児連れの保護者等に配慮した駅施設の整備等（継続）	
(2) 海老名駅北側改札口の事業推進について（継続）	
その他	6
(1) 自転車等駐車場用地の提供等放置自転車対策の推進（継続）	
(2) 乗継運賃制度の拡充（継続）	

輸送力増強

1 新線・線増計画

(1) いずみ野線の平塚への延伸（継続）

いずみ野線延伸については、平成 21 年 3 月に、平塚への工事施行認可申請期限の 10 年延長が認可され、平成 24 年 6 月には、「いずみ野線延伸の実現に向けた検討会」により、湘南台駅から慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス周辺までの区間について検討結果が取りまとめられました。

その検討結果を受け、2 つの新駅周辺のまちづくりに向け取り組んでいるところであり、特に慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス付近の健康と文化の森地区については、市街化区域への編入も見据え、新たな都市拠点にふさわしいまちづくりの検討を進めており、平成 27 年 3 月には、まちづくり基本計画素案をとりまとめたところです。

このような状況を踏まえ、検討結果を参考に、同区間を端緒とし、早期事業化に取り組まれるよう要望いたします。

（かながわグランドデザイン、平塚市総合計画、平塚市都市マスタープラン、平塚市総合交通計画、藤沢市都市マスタープラン、茅ヶ崎市総合計画、ちがさき都市マスタープラン、茅ヶ崎市総合交通プラン）

(2) いずみ野線のツインシティ方面への延伸（継続）

ツインシティは、県央・湘南都市圏の南の玄関口として位置付けられ、広域交通の結節性を生かした広域交流の拠点形成が望まれております。そのためには、周辺都市とのアクセス向上、横浜・藤沢方面への公共交通のネットワークの形成が重要な要素と考えております。

さらに、運輸政策審議会答申第 18 号でも、いずみ野線の相模線方面への延伸は、今後整備について検討すべき路線として位置付けられているとともに、平成 27 年度中に取りまとめられる予定の新たな答申においても引き続き位置付けられるよう、提案しているところです。

平成 24 年 6 月には、「いずみ野線延伸の実現に向けた検討会」により、ツインシティまでの延伸をめざしつつ、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス周辺までの区間を第一期区間とした、いずみ野線延伸の検討結果が取りまとめられ、平成 24 年 10 月には「いずみ野線延伸連絡協議会」が発足し、関係者間で課題解決に向けた協議を進めています。また、2 つの新駅周辺のまちづくりに向け取り組んでいるところであり、特に慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス付近の健康と文化の森地区については、市街化区域への編入手続きに着手しているなど、新たな都市拠点にふさわしいまちづくりの検討を進めており、平成 27 年 3 月にはまちづくり基本計画素案をとりまとめたところです。

このような状況を踏まえ、いずみ野線のツインシティ方面への延伸について、ご検討されるよう要望いたします。

（ かながわグランドデザイン、平塚市総合計画、平塚市都市マスタープラン、平塚市総合交通計画、藤沢市都市マスタープラン、寒川町総合計画さむかわ2020プラン後期基本計画、寒川町都市マスタープラン ）

2 輸送計画の改善

<他路線への乗入れ>

(1) JR相模線への乗入れ（継続）

JR相模線の利用者は年々増加しており、また、都市鉄道等利便増進法に基づき現在事業中の神奈川東部方面線（相鉄・JR直通線、相鉄・東急直通線）が開通すると、さらに利用者が増加すると見込まれております。

ついては、シームレス化等、乗換え客の利便性向上のため、JR相模線への乗入れを検討されるよう要望いたします。

（ 茅ヶ崎市総合計画第2次実施計画、ちがさき都市マスタープラン、茅ヶ崎市総合交通プラン ）

(2) 小田急線への乗入れ（継続）

厚木・愛甲地域（厚木市、愛川町及び清川村）の住民が横浜方面に移動する頻度は、東京方面と同じく年間相当数あり、海老名駅での乗換えに不便を感じております。

また、関東有数の観光地である箱根や第4の国際観光地を目指す霊峰大山地域を乗換えなしで結ぶ新たな交通ネットワークの構築は、社会便益の向上及び新たな輸送需要の喚起につながるものです。

ついては、相鉄・東急直通線事業及び相鉄・JR直通線事業や、また、相模鉄道本線は、過去において本厚木駅まで乗り入れていた実績もあることから、これを契機に、関係各社と連携して本厚木駅までの乗入れについてご検討されるよう要望いたします。

本厚木駅は、乗り換えなし関東大手私鉄駅乗降人員数が1位であると同時に、厚木市の昼夜間人口比率は114.9%であり、県内19市中1位であります。これは、市内在住及び在勤、在学の多くの利用者があるものであり、横浜方面への往来も相当な数に上ります。

よって、現在海老名駅止まりの相鉄本線の本厚木駅までの延伸により、本厚木駅利用者のみならず、県央・県西方面の住民の利便性が飛躍的に向上します。

また、さがみ縦貫道路等の高規格道路の完成により、県央地域の産業集積がさらに進むことも確実であり、地域経済の活性化の観点から、商工会議所などの経済界からも強い要望がありますので、本格的な検討をお願いします。

（ 第9次厚木市総合計画～あつぎ元気プラン～、厚木市都市マスタープラン ）

<その他>

(3) 横浜駅～海老名駅間の特急電車の充実（継続）

現在、海老名駅周辺では、既が開発が進んでいる東口方面以外の中心市街地形成に向けた取組みが進められております。海老名駅駅舎部自由通路が整備され、今後、小田急・JR 駅間部自由通路整備事業等、駅周辺の都市基盤整備が一層進むと同時に、民間開発計画やJR 海老名駅西口の土地区画整理事業等、駅周辺のまちづくりが積極的に推進されております。上記の事業等により、海老名駅鉄道利用者の大幅な増加が見込まれます。

ついては、現在、日中時間帯において特急電車を運行していますが、利用者の利便性向上を図るため、他の時間帯における運行についても充実されるよう要望いたします。

(4) 神奈川東部方面線の事業進捗について（継続）

神奈川東部方面線（相鉄・JR 直通線、相鉄・東急直通線）については、速達性向上計画の認定を受け事業化しておりますが、本路線は東京都心部や新幹線駅である新横浜駅へのアクセス向上や、沿線のさらなる発展などに資することから、整備主体とともに確実に事業を推進されるとともに、既存の鉄道ネットワークを活用した多方面へのアクセス向上の検討にあたっては、一層利便性の高い路線となるよう、関係鉄道事業者との調整を積極的に行うよう要望いたします。

また、本路線間の速達性向上のため、海老名駅から東京都心部方面への特急電車の運転についても、あわせて検討していただくよう要望いたします。

さらに、羽沢駅（仮称）の駅名称について、将来にわたり市民に親しまれる名称となるよう、地元の意見を聞きながら検討するよう要望します。

（かながわランドデザイン、横浜市都市計画マスタープラン、横浜都市交通計画）

利便性向上

1 新駅の設置

(1) 海老名駅～かしわ台駅間への新駅の設置（継続）

海老名駅～かしわ台駅間には住宅地が広がっており、また、現在、新たな住宅地の開発も順次進められております。

ついては、駅間が 2.8km と他駅間に比べて長いことから、利用者の利便性向上のため、新駅を設置されるよう要望いたします。

（海老名市第四次総合計画後期基本計画、海老名市都市マスタープラン）

2 駅施設等の整備

(1) 高齢者、障害者、乳幼児連れの保護者等に配慮した駅施設の整備等（継続）

「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）」に基づき、バリアフリー化について一定の整備は実施していただいておりますが、「移動等円滑化の促進に関する基本方針」も踏まえ、誰もがより安全かつ自由に駅を利用できるよう、次の事項について、特段に配慮されるよう要望いたします。

また、現在、いくつかの駅周辺の自治体においては、バリアフリー法に基づいた基本構想が作成されており、貴社でも公共交通特定事業計画の作成及び移動等の円滑化に係る事業を推進し、整備にあたっては、高齢者・障害者など駅利用者の意見を伺いながら進めるよう要望いたします。

ホームからの転落や列車との接触防止対策として有効な、ホームドアや可動式ホーム柵の設置について、支援制度も創設された一部自治体の駅はもとより、利用客の多い駅にも早期設置を要望します。

ホームドア・可動式ホーム柵の整備が困難な場合は、転落時の対応として転落検知マット等のさらなる設置

妊産婦・乳幼児連れの保護者が安心して利用出来るような施設（親子トイレ、ベビーキープ付きトイレ、子どもサイズの便器・手洗い器・ベビーベッド、授乳室等）の整備

傷病者の収容に関しては、救急担架（奥行き2.0m、幅0.6m程度）を水平に搬送することが望ましい傷病も多いため、救急担架を容易に収納できるエレベーターの設置の推進。設置スペースの制約により、設置まで長期間かかる場合は、当面の代替策による対応

駅構内については、バリアフリー法に基づく移動等円滑化基準でも滑りにくい仕上げにすることとされておりますが、雨天時においても滑りにくい仕上げにされるよう要望します。

高齢者や障害者、乳幼児連れの保護者等がさらに利用しやすい新車両の開発・導入の推進

視覚障害者が安全かつ円滑に移動できるよう、改札や階段、トイレ、昇降施設等駅構内における音響音声案内装置及び点字案内表示板の設置の推進、視覚障害者用階段表示の整備

聴覚障害者の利便性向上を図るための、車内行先電光表示板の設置の推進

高齢者や障害者、乳幼児連れの保護者等のエレベーター等利用時の配慮、高齢者や障害者の行動特性を考慮した実践的な訓練の推進、心のバリアフリーの啓発、駅職員のサービス介助士資格取得等の情報提供の充実

横浜市基本構想、横浜市都市計画マスタープラン、横浜都市交通計画、第8次大和市総合計画、大和市障がい者福祉計画、大和市都市計画マスタープラン、大和市総合交通施策、大和市子ども・子育て支援事業計画、第四次座間市総合計画、座間市都市マスタープラン、海老名市都市マスタープラン、海老名市障がい者福祉計画

(2) 海老名駅北側改札口の事業推進について（継続）

かねてより要望している海老名駅北側改札口の整備等も含めた総合的な施設整備について、国庫補助制度を活用して事業を推進しているところです。

海老名市では本年10月、海老名駅西口土地区画整理事業による、ららぽーと海老名のオープン等、海老名駅西口地区がまち開きされました。駅周辺の都市基盤整備が一層進み、海老名駅鉄道利用者の大幅な増加が見込まれます。海老名駅の東西結節機能の強化など、海老名市地域公共交通協議会での協議事項も反映し、総合的な施設整備に向けて取り組まれるよう要望いたします。

その他

(1) 自転車等駐車場用地の提供等放置自転車対策の推進（継続）

近年、通勤・通学者の鉄道駅までの交通手段として、自転車や原動機付自転車の利用が急増しており、駅前の歩道、車道、さらに周辺の道路、空地にこれらの自転車等が放置され、歩行者の安全対策、車両交通対策、また景観上から支障が大きくなっております。

このような問題の解決及び利用者の利便性向上のため、各自治体では自転車等駐車場の確保及び整備に努力しているところですが、引き続き貴社におかれても、駅周辺状況に応じて自転車等駐車場の整備や用地の提供等について、特段のご協力、ご配慮をお願いします。

神奈川東部方面線との分岐駅となる西谷駅や、新設される（仮称）羽沢駅についても取り組まれますよう要望します。

なお、平成18年6月から改正道路交通法が施行され、自治体としても、自動二輪車の駐車対策を早急に進める必要があるため、自転車や原動機付自転車と同様に特段のご協力、ご配慮をお願いいたします。

（横浜都市交通計画、大和市総合交通施策）

(2) 乗継運賃制度の拡充（継続）

現在、貴社におかれては、JR東日本ほか、他の民営鉄道との乗継ぎによる割引制度が実施されており、平成25年3月からは交通系ICカードの全国相互利用サービスが開始され、公共交通機関の乗継利便性の向上に取り組まれているところですが、さらなる利便性の向上を図るため、今後は、他の公共交通機関も含めた乗継運賃制度の拡充について、積極的に取り組まれるよう要望いたします。

（横浜都市交通計画）